

溪谷に紫雲たなびく

曹 洞 宗

雨降山 石雲寺



索 引

- 1頁 — 石雲寺のみ仏
- 2頁 — 石雲寺の成り立ち
- 3頁 — 北条家印判状、雨降石と石尊社
- 4頁 — 石雲寺略年表、妙観石と坐禅石
- 5頁 — 御開山と歴代住職
- 6頁 — 開基位牌、石雲寺の年中行事

石雲寺のみ仏



ふげんぼさつ
脇侍：普賢菩薩



しゃかむにぶつ
本尊：釈迦牟尼仏



もんじゅぼさつ
脇侍：文殊菩薩



だるまだいし
達磨大師

インドから中国に仏教を伝えられた禅宗の初祖です。



によいりんかんぜおんぼさつ
如意輪観世音菩薩

開山・位牌堂の中央に安置されます。今は廃寺となった西富岡の末寺、無量院の本尊でした。



だいげんしゅうりぼさつ
大権修理菩薩

道元禅師が中国に渡られる折、船が難破しそうになった時現れ、水先案内をされた仏様です。

石雲寺の成り立ち

寺伝によれば、今からおよそ1300年前の養老2年(718)、諸国を行脚していた華嚴妙瑞という法師が、日向の地へやって来たそうです。

法師が山中の石上に座し瞑想すると、溪谷の空に紫雲がたなびいており、不思議に思った法師が河原に降りると、そこには周囲3丈(約10メートル)ほどの大きな石がありました。そこで法師が一心に仏・菩薩の名号を唱えたところ、仏・菩薩の姿が現れたそうです。



(伝) 大友皇子陵 (平成25年までの様子)

里人に尋ねると、その昔、壬申の乱に敗れた大友皇子が近江国から逃れ住まわれ、この地で亡くなられ、従者も殉死したといふのです。哀れに思った法師は精舎を建て、皇子の菩提を弔うこととしました。法師は法相宗(ほっそうしゅう)の僧であったようです。

皇子の墓所は当初、遺言により松を植えただけでしたが、鎌倉時代になって従者の子孫が石で五重の塔を建てたそうです。

時代が下って、室町時代中期の長祿年間、天溪宗恩(てんけいしゅうおん)和尚が曹洞宗として中興開山され、天文12年(1543)に北条幻庵から朱印状を拝領した頃、寺院としての基盤が確立したようです。



令和2年に適正管理のため
石雲寺境内に移設しました



元の場所に
レプリカを設置

当初の寺院名は「医王山雨降院」で、後に開闢(かいびやく)の縁起に因んで「雨降山石雲寺」と改められています。

また、以前は総門下の沢の対岸の場所に位置していたのが、後に現在地に移築された様子で、古地図には「雨降院跡」と記され、「皇子の墓地跡」とともに、戦前は宮内省の所領だったようです。

石造り五重の塔は平成17年に建造物の部で伊勢原市から文化財指定を受けました。

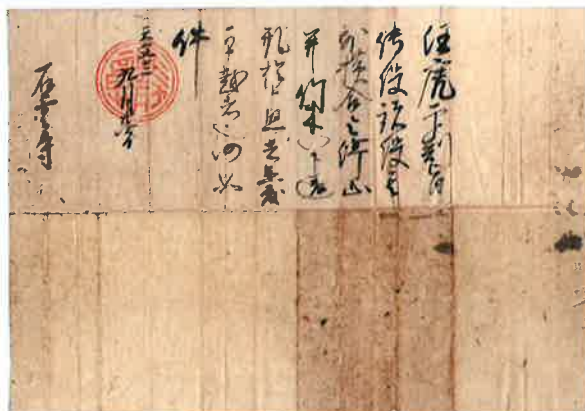
そして、石塔は元の場所では寺から離れており、十分な管理ができませんでしたので、現在は石雲寺境内に移設し、元の場所にはレプリカの石塔を設置しました。

※石雲寺の成り立ちに関する資料の主なものは天明2年(1782)石雲寺15世、透鱗和尚の代に錦泉山主肇真が記した「石雲禪寺記録」によります。

伊勢原市指定文化財 北条幻庵印判状



北条幻庵印判状(写し)



北条幻庵印判状(原本)

北条早雲の四男で、北条家当主「氏康」の叔父、「北条幻庵」から当寺が拝領した印判状で印文は「静意」、天文12年(1543)9月24日に受けました。

この年、小田原北条氏は武蔵、相模、伊豆で「検地」すなわち所領調査を行っています。日向の地は「知行」といって、幻庵が管理統治していました。

本文は、「虎ノ印判ノ旨ニ任セテ伝役諸ノ横合ヲ停止セシム、並ニ竹木以下ノ達乱申懸ニハ急度申越可キ者也。ヨツテ件ノ如シ。」

意味は、「北条家が保護する寺院であるから、不当な妨害は許さない、むやみに寺域に立入って竹木を切る等、秩序に背く者があれば申し出なさい」という内容です。

石尊寺には原本と写しがあり、平成30年にその両方が文化財指定されました。明治になって新政府は寺院の印判状を差し出させました。時の住職は提出に備え、精緻な写本を作成したようです。

しかし、徳川家歴代の印判状は提出しましたが、北条家の分は提出をまぬかれました。原本と写しは、書体にしても印影にしても、そっくりに写されており、寺に残されている徳川歴代の印判状の写本も同じように精緻に書写したことが想像され、当時の住職の懸命な努力を見て取れる貴重な資料です。

あふりいし せきそんしゃ
雨降石と石尊社

石尊社は本堂の南西に位置するお堂で、「石尊権現」を祀り、「雨降石」を神体とします。寺に御神体とは奇異ですが、室町期に起こった、仏と神はもともと同体であるという「神仏習合」の名残です。

開山天溪禪師が山中の石上で坐禅をしておられたとき雨降山の神が降臨され、神石を授与されたといわれています。神石は「形質青白ニシテ風雅文彬タリ」と形容されています。古来、干ばつは飢饉を招きます、神石は雨乞い信仰の神体と思われれます。「文明元年(1469)6月天溪禪師自ら石尊ノ堂宇ヲ建立ス」とあります。

石雲寺略年表

和暦 西暦

養老2年4月 (718)

長祿年間

応仁年間

文明元年6月 (1469)

天文12年9月 (1543)

永祿2年6月 (1559)

天正19年11月 (1591)

慶長5年2月 (1600)

慶長7年2月 (1602)

寛永元年11月 (1624)

延宝2年6月 (1674)

天和3年 (1683)

延享2年12月 (1745)

安永元年6月 (1772)

安永4年10月 (1775)

寛政2年6月 (1790)

嘉永2年 (1849)

平成29年 (2017)

平成30年11月 (2018)

華嚴妙瑞法師雨降院開闢

中興・天溪大和尚雨降山中に住む

天溪大和尚諸堂を建立

天溪大和尚石尊堂を建立

北条氏康公(幻庵の知行)より朱印状を受ける、寺領31町歩

石尊社再建、詠恕代

徳川家康公より朱印状を受ける

5石、寺領31町歩

失火により諸堂を焼失

庫裡再建、嶺與代

本堂再建、嶺與代

石尊社再建、演國代

一の沢木喰上人作達磨像寄贈される

山林火災により諸堂を焼失

石尊社再建、透鱗代

本堂再建、透鱗代

石尊社再建、泰容代

石尊社再建、吟龍代

本堂耐震改修工事完了

開創1300年記念式典

本堂耐震改修工事と記念式典



工事中の本堂



開創1300年記念式典

平成29年12月完成。
平成30年1月3日開創1300年記念式典を行いました。

開創1300年記念事業の一環として築240年を越えた本堂を「上げ舞い工法」でジャッキアップし、全面基礎を構築、更に壁面補強工事を実施しました。

石坐禅師天溪と石観妙



石観妙は、雨降院開闢(かいびやく)の祖、華嚴妙瑞(けごんみょうざい)法師が、摩訶止観(まかしかん)と云って、禅宗で言えば「坐禅」に相当する行を修められた石で、西山に有ると伝わりますが、現在まで所在は未確認です。天溪禅師坐禅石は、現在も歴代住職墓域の脇にあります。

記録には「石上二座定シテ恒ニ溪声ノ広長舌ヲ聴キ山色ノ清浄身ヲ見ル、因テ以テ妙観石ト名ツケ、又華嚴石ト号ス。」と有ります。
静かなこの地で石の上に座し、溪谷の水音を仏様の声として聴き、四季の移ろいの中の山の姿や木々の色を仏様の姿そのままとして受け止め、修行された様子が想像されます。

宗祖と石雲寺御開山

てんけいぜんじ
開山、天溪禪師

長禄年間、南足柄市の長泉院から赴き、石雲寺を曹洞宗に改宗し、長泉院末として開山された。



どうげんぜんじ
宗祖、道元禪師

曹洞宗を日本に伝えられ、福井県の大本山永平寺を開かれた。



石雲寺歴代住職（曹洞宗に改宗後）

世代	住職名	俗姓	示寂年月日	西暦
開山	天溪宗恩大和尚		延徳元年1月24日	1489
2世	悦叟宗忻大和尚		天正3年6月18日	1575
3世	寥堂昌廓大和尚		永禄3年6月28日	1560
4世	吸江詠恕大和尚		天正18年4月18日	1590
5世	心月明印大和尚		慶長7年2月21日	1602
6世	花翁英佃大和尚		慶長3年9月1日	1598
7世	舜山了暁大和尚		慶長6年6月25日	1601
8世	奪外嶺與大和尚		寛永13年2月15日	1636
9世	専堂全貞大和尚		延宝元年11月5日	1673
10世	咄珊映突大和尚		延宝6年11月23日	1678
11世	大岩演國大和尚		元禄14年4月5日	1701
12世	玉岑秀石大和尚		正徳2年11月12日	1712
13世	嶮巖究峰大和尚		延享3年1月3日	1746
14世	道興瞎宗大和尚		明和5年9月27日	1768
15世	金網透鱗大和尚		天明3年4月29日	1783
16世	華巖賢瑞大和尚		天明4年2月21日	1784
17世	利禅天明大和尚		文政2年4月15日	1819
18世	東海泰容大和尚		文化9年12月5日	1812
19世	諦観是法大和尚		文化12年7月28日	1815
20世	一棟梁楹大和尚		弘化2年11月17日	1845
21世	四海吟龍大和尚		元治元年12月6日	1864
22世	覺庵素眞大和尚		明治13年10月5日	1880
23世	大應童祐大和尚	笹尾	明治15年に退院、示寂年月日不祥	
24世	天真如一大和尚	弘生	明治35年6月14日	1902
25世	倫遵覺雄大和尚	勝俣	昭和18年3月16日	1943
26世	黙外活勇大和尚	千田	昭和51年10月5日	1976
27世	黙納洋宏大和尚	千田	昭和61年4月5日	1986
28世	現住職	清水		

石雲寺の年中行事

1月1・2日	檀信徒年賀参拝
1月第3日、曜日	役員新年初寄り
3月彼岸お中日	春季彼岸会法要 護持会定例総会
5月10日	山門大施食会
7月13～15日	東京横浜方面棚経
8月13～15日	地元地区棚経
9月彼岸お中日	秋季彼岸会法要
10月第4日、曜日	皇子まつり
12月第3日、曜日	合同年回法要



開基・石雲寺殿真崇明覚大法皇（大友皇子）の位牌

（せきうんじでんしんそうみょうかくだいほうおう）と読みます。
当寺は華嚴法師が、皇子の菩提を弔うために開創された、という縁起から皇子を「開基」としています。

周辺の見所



日陰道



日向溪谷

「かながわの古道50選」に選ばれている全長1.5キロほどののどかな道で、初夏にはアジサイが、稲穂が黄金色に色づく9月中旬頃には田のあぜや野辺のあちこちに真紅の彼岸花が咲き誇ります。この彼岸花は山の緑と稲の黄色に映え、見事なコントラストを見せます。

「かながわの花の名所100選」の一つでもあります。

雨降山（大山）を源流とする清流は、一年中涸れることなく、夏は涼風を運びます。

鹿、リス、タヌキなどの野生動物や、カワセミ、ルリビタキ、ウグイス、メジロ等野鳥の宝庫でもあります。

休日ともなると、家族連れの歓声が溪谷にこだまします。



くまがいなおざね
 (伝) 熊谷直実 作 達磨大師像

「一ノ谷の戦い」で我が子と同じ若干17歳の平敦盛の首をはねた熊谷直実が、世の無常を感じ、文治5年(1189)石雲寺で剃髪出家し、その記念に自ら刻んだと伝わる。



発行 石雲寺護持会 〒259-1101 神奈川県伊勢原市日向 1767 番地
 Tel.0463-95-4582 ファクス 95-5422 E:mail sekiunji@jeans.ocn.ne.jp
 ホームページURL <http://sekiunji.sakura.ne.jp/>